

第92回メーデー開催

5月1日、滋賀県民メーデー集会を膳所公園で開催しました。会場参加者は200人で、YouTubeによる配信も行いました。

オープニングのコンサートは湊愛子さんと小倉繁昌さんでした。メーデー歌や水口ばやし、「北の国から」のテーマなど元気が出る演奏をしていただきました。



主催者挨拶

岡本恭治実行委員長が「緊急事態宣言を出さざるをえなくなったのは、コロナ感染の拡大に対し、無症状者のPCR検査、変異株の徹底調査、迅速なワクチン接種、医療提供体制の強化など、やるべきことをやらなかった結果で、“菅政権による人災”だ。人口当たりのPCR検査数はいまだに世界で145位。「ホンマに先進国なんか」という水準。8時間働いて普通に暮らせる社会の実現、貧困と格差の解消などメーデースローガンすべての実現、戦争のない平和な世界めざし、働く者の手で、未来をつくりましょう」と開会のあいさつをしました。



来賓挨拶

4人の方から来賓のご挨拶をいただきました。要旨を記載します。

明るい滋賀県政をつくる会代表 近藤公人様

この間の滋賀県政はどうか。県民が安心できるようPCR検査などしているか。他方で国体予算に莫大な税金を投入して、陸上競技場やプールをつくっている。今はPCR検査に予算を回すべき。一度は「不要」と凍結した大戸川ダム建設に向けた動きもある。ダムは大雨が降れば放流するが、そのため下流で河川が氾濫したこともある。再開には科学的根拠が必要。県民の、科学の目線で政策を変えていこう。



日本共産党滋賀県委員会委員 佐藤耕平様

派遣・非正規という不安定な働き方を広げてきた問題、とりわけ女性の仕事が構造的に派遣や非正規に置き換えられてきた「ジェンダー不平等」の問題という政治の矛盾が表れている。働く人を大切にしない社会に未来はない。コロナをきっかけに新自由主義の政治は終わりにして、医療や介護や福祉や保育など公的な部分を補助金で手厚くし、一日8時間働けば普通に暮らせる労働環境を政治の責任で作っていく。

市民と野党の共闘で必ず野党が勝利して新しい政治政権をつくる。皆さんと力を合わせたい。



社会民主党滋賀県連合代表 小坂淑子様

知事の自肅要請は基本的人権や私の固有の権利を奪っている。コロナの対策は必要だが（自肅の）お願いは感染対策でない。

このような市民の集まりが世の中を変えていく基本。なかなかそれがうねりになっていかない。国民の関心の高いニュースは皇室の話。日本人はおかしくなってしまった。ここにいる私たちはおかしくならないように、しっかりと結集して菅政権退陣のために頑張っていきたい。



安法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民の会しが代表 齋藤敏康様

労働者や資本家が企業利益だけでなく消費者や地域社会の豊かさを考える、電力や交通インフラを整備、農業や商業モノづくりを通じて地域社会の経済力を強化しないと行けない。医療・保育・福祉・介護、教育・文化に積極的に投資する政策によって市民生活の安心と生きがいを高めるよう実現しよう。

国政における野党共闘が始まって5年、野党の相互理解と相互尊重によって着実な発展と成熟が認められる。市民の会しがとしては滋賀県においても総選挙に向けて遅くとも7月頃までには国政4野党の候補が一堂に会して総選挙決起集会を開催したいと考えている。皆さん、知恵を力に創意工夫で粘り強い行動を通じて野党連合政権の実現を手繰り寄せていこう。



近畿労働金庫滋賀地区総括本部本部長

川瀬美智子様

滋賀県でも変異株が急速に増え感染者増加が続いている。コロナ禍が長引き失業者が10万人を超えたと報道されており、実際には数倍とも数十倍

ともいわれている。特に女性はアルバイトなどで働いている人が多いので暮らしを直撃している。誰かが困っている時のために助けが必要な時のために労働金庫は存在している。助け合うことは労働金庫の原点。原点を大切に活動する積極的に



展開し福祉金融機関としての労金の社会的役割を果たしていく。皆様の活動が今後ますます充実発展することを祈念し連帯の挨拶とする。

メッセージをいただいた皆様

- ・92回中央メーデー実行委員会様
- ・滋賀県知事 三日月大造様
- ・立憲民主党滋賀県総支部連合会 代表田島一成様
- ・国民民主党滋賀県総支部連合会 代表 斎藤アレックス様
- ・滋賀県生活協同組合連合会 会長理事 北川紀子様
ありがとうございました。

リレートーク

6人の方からリレートークをしていただきました。要旨を掲載します。

滋賀県医労連 佐々木さん

看護師をしている。大津日赤でもコロナ患者を受け入れている。私たちは自身の身を粉にして働き、生活も大きく制限される中で働きストレスを発散させる場もなく疲れ切っている。知事の要請で一つの病棟を2週間で閉鎖し、2月から軽症・中等度の患者の受け入れが始まっている。各病棟のスタッフ1~2人が1か月をめぐりに交代しながら勤務している。



三日月知事は簡単に宣言を出しコロナ病床を増やすというが、看護師がいなくても簡単にできることではない。そのことを政府や滋賀県、参加されている皆さんに分かって欲しい。

（看護現場は）コロナワクチン接種への派遣もしており現場の人員は減っている。その中でオリンピックへの看護師500人の派遣、どこから人員がうまれるのか。菅首相は看護協会に聞いて現在休んでいる人がいるのでそこから人員が生まれると言っているが、なぜ休んでいるのか考えていない発言だ。

諸外国に比べてこの貧弱な日本の医療体制を今見直すチャンスではないか。誰もが安心して病院にかかれるようにベッドも医療従事者も大幅に増やす必要がある。今こそ私たち医療労働者と皆さんと一緒に、命を大切にする政府に作り変

えていかなければならない。是非皆さん力を貸して欲しい。

JMITU 京滋地本草津電機支部 太田さん

非正規労働者の処遇改善について話したい。私の働く草津電機でも正規と非正規の処遇に大きな格差があった。これをこの



21 春闘で大きく前進させることができた。

なぜ前進させることができたのかと言えば、もちろん法律の施行もあるが、もう 2 年前からこの法律の施行に向けて職場で就業規則を洗い出す議論をし、要求内容や問題点をしっかり機関紙でみんなにアピールしてきた。組合の掲示板にも張り出した。職場で非正規の処遇改善の世論にしたということは大きな前進だった。もし法律が施行されているにも関わらず、組合が要求していなければきっと会社は知らん顔してずるずると就業規則の変更を行わなかっただろう。そういう意味ではこの春闘での大きな前進だった。これからも皆さんと力を合わせて共に頑張りたい。

福祉保育労働組合滋賀支部 清水さん



福祉労働者は利用者を守ることが社会的な役割だということで奮闘している。実際保育所でも他の施設でも感染をさせないための仕事はかなり増えている。感染しない・させないための大きな緊張感とストレスを抱え仕事している。

滋賀のコロナ対策はどうか。PCR 検査を無症状者も含め定期的に行って欲しいと私たちは要求してきた。しかし三日月県政は全くこれに答えるつもりがない。

4 月から大津市は保育所の産休代替え補助金を削減廃止した。そのため保育所によっては 2000 万 3000 万という単位で減収になっている。私たちの組合のあるところでも実際に賃金と一時金のカットが春闘では提案をされて、今でも団体交渉を続

け撤回させようと頑張っている。エッセンシャルワーカーという言葉で福祉保育の仕事はクローズアップされているが、実際には制度政策で全くフォローしていない。

コロナで私たちの組合もそうだが、色んな悩み事や困難や問題点や、やっていることをみんなで共有することが非常に難しくなっている。メーデーをコロナ禍でも持ってもらい、私達が訴えを出来る事は非常にありがたいことだ。皆さんと一緒に頑張っていきたい。

滋賀県商工団体連合会事務局長 植田さん



中小業者は一昨年 10 月の消費税 10%増税の時から苦しい状況が続いている。少なくない業者が廃業に追い込まれ、さらに昨年 2 月にコロナが広がり追い打ちをかけた。私たちは様々な

支援制度の創設をするように国に声をあげ続けてきた。不十分ではあるが実現した。

持続化給付金など活用して励まし合って頑張ってきた。自粛を求めるのであればそれに見合った補償がされるべきだと訴えてきた。

菅政権はオリンピック開催に、三日月県政は国体に固執している。税金の使い方がおかしい。

世界を見れば消費税にあたる付加価値税を 56 の国と地域で減税している。今度の総選挙で野党が多数を占めて消費税を下げ、自粛に対して補償する、そういう政府を目指そうと頑張っている。

新日本婦人の会大津支部 林さん

1 年以上にも及ぶ新型コロナウイルス感染症の拡大は、女性たちの抱えるしんどさに追い打ちをかけているという事実を明らかにした。これはコロナ感染症が発生したから生まれた問題ではなく、これまでからあった日本の政治・社会の根深いジェンダーの問題としてあぶり出された。国民一人 10 万円の給付金が世帯主に一括して振り込まれた背景は、家父長制度という旧態依然の問題を私たちに気付かせた。

女性の完全失業者数の折れ線グラフの形は、2 ヶ月後に女性の自殺者数の折れ線グラフと重なって現れてきている。支援が途切れた時に自殺となって現れているということに大きなショックを受けた。

大津では昨年の夏、学校給食の中止期間を当初

の計画を撤回させ再開を早めさせることができた。PCR 検査を定期的に行い制限させている修学旅行や運動会、部活。これ以上子どもに我慢させないでと学ぶ権利を保障せよと声を届けている。

政治を変える、政権を交代させる、このこと以外に実現への道はない。私たちは市民と野党の共同で要求を実現する新しい政権を作ろうと呼びかける。政治にもっと女性の声を。共に頑張ろう。



民主青年同盟滋賀委員長 岡田さん



学生への食糧支援をしてきた。食料配布の場でアンケートや最低賃金引き上げを求める署名を頼んだ。最低賃金1500円を求めていると話したら「そういうことをしたら企業は潰れるのではないか」という声があった。まだ社会にも出ていない学生がそのように考えざるをえない社会を、なんとかしないといけないと感じた。

アンケートに「今の食事に満足しているか」という項目を作った。食料支援で出会った学生はほとんどの人が「満足している」「やや満足している」という所に回答した。よくよく聞いて「食べたい時に肉やフルーツを食べることが出来ているか」と聞くとハッとしたように「買えていない」と言った。今の学生は今の当面の生活に満足させられている、ということに気づかされた。

ボランティアで学生がスタッフとして参加した。終了後に感想を交流すると「久しぶりに社会と繋がったと感じた。こういう経験ができて本当にうれしい」と話していた。学生は単に学校に行くことができただけでなく、人との交流も遮断されている。今の学生にとって自分らしく本当に学びたいことが学べて自分の経験になっているのかというと、できていない状況になっている。

私たちはこういう食糧支援をしなければいけない社会を変えたいと思っている。そのことを話し、民青に入って欲しいと伝えている。学生、労働者が自分らしく生きられる社会を目指すために政治そのものを変えていくことが必要だと思っている。

私たちはこういう食糧支援をしなければいけない社会を変えたいと思っている。そのことを話し、民青に入って欲しいと伝えている。学生、労働者が自分らしく生きられる社会を目指すために政治そのものを変えていくことが必要だと思っている。

デコレーションプラカードの審査発表を行いました。いずれも力作ばかりでした。



写真上：出品作品の一部。アマビエとゴジラ。

メーデー宣言

「滋賀県政は国体開催に便乗した過剰な土建事業を推進しています。一方、社会保障や教育福祉には冷たく、新型コロナ対策においては検査の抑制を続けるなどまったく不十分です。また、凍結されていた大戸川ダムを建設へと進めようとしています。声を引き続きあげなければなりません。県民要求の実現のため力を尽くします。」としたメーデー宣言を確認しました。

提案は医労連の坂田さんと杉江さんでした。



閉会挨拶 杉本高副実行委員長

「今、国政そして県政を変えていく必要があると思っています。皆さん方がより良い社会で生きてい



ける、皆さんの子ども達がこの日本に生まれてよかったと思える社会を作っていくためにも、今後もがんばっていきたい」

終了後、石山駅前と草津駅前街頭宣伝を行いました。

各地域メーデー

湖北地域メーデー

例年は長浜八幡宮で集会を行い、デモ行進をしていますが、今年は感染防止対策をして臨湖で集会をしました。午前10時から11時15分までで行いました。主催者挨拶ののち、来賓あいさつを長浜革新懇から瀧上様、日本共産党から藤田様から頂きました。続いて長浜民商、教職員組合、年金者組合、母親連絡会、新婦人、原発ゼロの会より訴えがありました。最後にメーデー宣言を採択しました。参加者は26人でした。



甲賀湖南地域メーデー

予想を上回る60数人が集まりました。コロナ禍でたいへんな医療労働者の医労連紫香楽病院から7人参加、現場のたいへんさを訴えられました。また、全滋賀教職員組合の労働者は現場の多忙の中ががんばっている様子を話されました。今回は、デモを取りやめたこともあって、10団体から発言がありました。いずれも人を大切にする政治がないがしろにされている事への怒りの発言が続きました。また、原発再稼働や核兵器禁止条約の批准に後ろ向きな政府へ批判があがりました。

デモに変わる甲賀市役所前のスタンディングアピールにも50人近い参加がありました。



※写真：医療現場の実態を訴える紫香楽病院の青年労働者

八幡地域メーデー

ミニコンサートののち各団体発言がありました。県メーデー実行委員会からは杉本高福実行委員長（県労連副議長）が参加、挨拶をしました。



最後にスローガンをコール。「がんばろう」と、「ケサラ」をうたいました。

高島地域メーデー

市内各地を宣伝しました。今津でコロナ禍の非正規労働者の課題を訴えていると、通行人の男性が、そばにいた参加者に「そうそう、わしも同じや」と語りかけて来ました。『警備会社勤務で、コロナでシフトが激減して月に4~5日の勤務になり生活ができない。会社が雇用保険に加入していないので雇用調整助成金も使えない』とのことでした。



守山野洲地域メーデー

今年も昨年に引き続き、コロナ禍の影響から駅宣という形で行いました。

午後からゲリラ豪雨により、中止の検討をせざるを得ないよ

うな悪天候の様子でしたが、開始直前には雨も上がり予定通り実施できました。

共産党県委員会の佐藤こうへい委員の参加がありました。リレートークで各団体から守山市民への訴えが行われました。

250個用意していた宣伝ビラ入りティッシュも1時間を経ずしてなくなり、メーデー宣言を確認・採択し終了しました。



滋賀県民メーデーは中央メーデーと5か所の地域メーデー合わせ、355人の参加でした。